

金城学院高等学校

柳瀬 公代 教諭

大学時代に学んだ文化人類学から学ぶ楽しさを知ったと話す柳瀬先生。
現在は地歴公民科とDignityを担当し、
思考力を育成する授業開発に取り組むとともに、
今年度から地歴公民科と英語科の合科科目“World Studies”も担当。
新たな学びの形成にチャレンジしていらっしゃいます。
また多文化を学び、現地の大学生と交流する
ハワイでのアメリカ語学研修の礎も柳瀬先生が築かれたもの。
こうした授業や研修を通して、生徒たちに真の地球市民になってもらいたいと
日々指導していらっしゃいます。



授業を通して思考力と発信力を身につけ
持続可能な社会に貢献する地球市民に

柳瀬公代教諭／金城学院大学文学部社会学科卒業後、南山大学大学院博士前期課程で文化人類学を専攻。金城学院中学校の社会科教諭として5年間教鞭を執ったのち、高校の地歴公民科教諭となる。2003年から2004年にかけて1年間、特別研修休暇を利用してイギリスのヨーク大学でシチズンシップ教育を学ぶ。今年5月にはESD日米教員交流プログラムに参加。また2年生の選択科目World Studiesで新しい授業の試みを展開している。

文化人類学の研究で 学ぶ楽しさを知り教師へ

私は金城学院大学文学部社会学科で学ぶ中で、文化人類学に出会いました。卒業論文では沖縄の墓制を研究したのですが、それがとても楽しかったので大学院に進学し、文化人類学を専攻しました。

文化人類学は世界の各民族の風習、儀礼や祭りなどにどのような意味があるのかを解明していく学問です。人々の行動や社会現象にどのような意味があるかを考え、事象と事象の間にどのような関係があるかを解き明かしていく研究活動を通して学びの楽しさを知り、「将来は学びの楽しさを伝える仕事をしたい」と思うようになったのです。縁あってこの金城学院高校で教えていますが、生徒たちには、私が感じたように学びの楽しさや発見する喜びを知ってもらいたいと思いながら、日々教壇に立っています。

アウトプット型の授業で 知識を活用しながら習得

現在は高校でDignity、世界史A、地理A、国際とWorld Studiesを教えています。国際は、現2年生から“World Studies”と名称を変え、日本語だけではなく、英語も使って国際社会について学ぶ授業へと発展しました。2010年から英語科の中野先生と構想を練り、開講に至りました。授業は、地歴公民科と英語科の教員がペアになって、チームティーチングの形態で行っています。授業ではたとえば英語でフォトランゲージとよばれるワークショップを行います。生徒たちは世界の人々の暮らしの様子が映し出された写真を読み取り英語で説明します。また楽しんで世界地理と英語を同時に学んでもらえるように、英語で世界地理に関するクイズを作り、チーム対抗クイズ大会をする学習活動も取り入れています。生徒たちは、とても積極的に学習活動に参加しています。

こうした、知識を活用しながら習得していくアウトプット型の授業は今、日本でも注目され、実践されはじめています。これまでの日本の授業は、知識のインプットに重点をおいてきました。しかし、今は知識を活用する力が求められています。“World Studies”では、社会と英語の知識を組み合わせることで活用することを通して、批判的思考力など21世紀型学力の育成をめざしています。

これからさらに、一緒に授業をしてくださっている先生方と、教材や授業の展開を工夫し進めていきたいと思っています。こうした新しい授業形態を許可してくださった金城学院に深く感謝をしています。

語学研修や授業を通して 真のグローバルな人材に

授業以外では今年の3月まで語学研修を担当していました。ハワイの語学研修で生徒たちはアリゾナメモリアルを訪ねます。実際に真珠湾攻撃を体験されたサバイバーの方から話を聞き、記念館を訪れ祈りを捧げます。日本では日本の視点から日米間の戦争を学ぶこととなりますが、生徒たちはアリゾナメモリアルへ行き、アメリカの視点もあることに気づきます。この“気づき”を通して、生徒たちは物事を多様な視点で見ることの大切さを知ります。

また研修中はハワイの大学生と共同生活をします。文化背景の異なる学生と英語を使って生活することを通じて、生徒たちに国際感覚を体得してもらいたいと思います。

21世紀の共通課題は持続可能な発展(Sustainable Development)です。11月にESDの国際会議がここ名古屋で開催されるように、教育は今、持続可能な発展のために貢献することが責務です。今年5月には、フルブライト・ジャパン主催の「ESD日米教員交流プログラム」に参加する機会を与えられ、アメリカの先生方も持続可能な発展のために、日々の教育活動に創意工夫されていることを実感してきました。

生徒たちには、Dignity(総合的な学習の時間)や授業、そのほかの活動を通して思考力を養い、どう改善するかを考え、自ら発信し行動することができる人になってもらいたいと思います。また、学びの楽しさを知り、学びを深め、知識を活用し持続可能な発展に貢献する“地球市民”になってもらいたいと願っています。



アメリカのリップスコーン・アカデミーにて



柳瀬先生はどんな人!?

3年生の皆さんに、柳瀬先生の印象を伺いました。すると「授業中にいろいろな資料を見せてくれるので分かりやすく楽しい」「質問に対して丁寧に教えてくれるので分かりやすい」という答えが返ってきました。また語学研修に参加した生徒たちからは「中学の時に参加したのですが、高校で先生が覚えていてくれて嬉しかった」「英語と社会を結びつけた話がとても興味深かった」との声が聞かれ、常に生徒たちと真摯に向き合う様子が窺えました。